

九州建設技術フォーラム 2025

- 日 程 2025年10月7日(火)・8日(水)
- 会 場 福岡国際会議場 1F・2F・3F・4F (福岡市博多区石城町2-1)
- 主 催 九州建設技術フォーラム実行委員会



【開催報告】

【目 次】

■ 「九州建設技術フォーラム 2025」開催報告

1. 「九州建設技術フォーラム」開催主旨及び実施概要	• • • • •	P1
2. 開催結果	• • • • •	P1
3. 実施内容	• • • • •	P1～
●1日目（10月7日）		
(1) 開会式	• • • • •	P1
(2) 基調講演	• • • • •	P2
(3) 技術情報提供	• • • • •	P2～
・技術情報のブース展示		
・ポスターセッション		
・自治体パネルの展示		
・プレゼンテーション		
・リクルーティングプレゼンテーション		
・NETIS相談コーナー		
●2日目（10月8日）		
(1) 技術情報提供	• • • • •	P8～
・技術情報のブース展示		
・ポスターセッション		
・自治体パネルの展示		
・プレゼンテーション		
・リクルーティングプレゼンテーション		
・NETIS相談コーナー		
4. 入場者数内訳	• • • • •	P11
5. 出展方法および所属団体別参加実績	• • • • •	P12～
6. 一般来場者へのアンケート調査結果	• • • • •	P14～
7. 学生へのアンケート調査結果	• • • • •	P18
8. ホームページの改定について	• • • • •	P21

■「九州建設技術フォーラム 2025」開催報告

1. 「九州建設技術フォーラム」開催主旨及び実施概要

九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及の促進をより効果的に図るため、「産」「学」「官」それぞれが新技術の開発・活用の取組みについて情報を発信し、「産」「学」「官」で技術情報のプレゼンテーションや展示、意見交換会等の形をとりながら連携を深め九州のさらなる建設技術の発展を目指すものです。

今年は、メインテーマに「老朽化するインフラへの対応～新たな発想の展開による地域防災力の強化」を掲げて開催。初日は、九州大学副学長の園田佳巨実行委員会委員長が主催者挨拶を行い開幕しました。

プログラムでは、講師に政策研究大学院大学特別教授の家田仁氏をお招きして「インフラ政策転換の時代」の演題で基調講演を開催（YouTubeでライブ配信も）しました。

会場計画では、1Fロビー展示ブースへの誘客増対策の一環として、受付を2Fロビーから1Fロビーへ移動。また、より多くの出展希望者に出展の機会を提供するために、1Fロビーにミニ展示ブース（5ブース）の新設も行った。

技術の出展状況では、ブース展示数は全体で90組織、出展技術数は132、プレゼンテーションには、30組織が参加しました。

来場者数は、学校5校（九州大学、九州工業大学、九州産業大学、福岡建設専門学校、祐誠高等学校）の参加を含め、2日間で2,906名（1日目：1,525名、2日目：1,381名）でした。

また、同時開催イベントとして「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム『九州フォーラム2025』」も行いました（※開催は10月8日のみ）。

2. 開催結果

○リアル展示等開催（ブース展示・ポスターセッション・基調講演等）

【開催日時】 1日目：令和7年10月7日（火） 13:00～17:00
2日目：令和7年10月8日（水） 9:30～16:30

【開催場所】 福岡国際会議場1Fロビー、2F多目的ホール、3Fメインホール、4F会議室（福岡市博多区石城町） TEL.092-262-4700

3. 実施内容

●1日目（10月7日）

（1）開会式



・実行委員会役員登壇



・主催者挨拶（園田委員長）

(2) 基調講演 ※聴講者は 721 名 ※YouTube 配信期間：10月 7 日～11月 15 日

- ・演題：「インフラ政策転換の時代」
- ・講師：家田 仁氏（政策研究大学院大学 特別教授）



・会場風景



・講師 (家田氏)



・講演風景



・YouTube の WEB 中継 (パソコン受信画面)

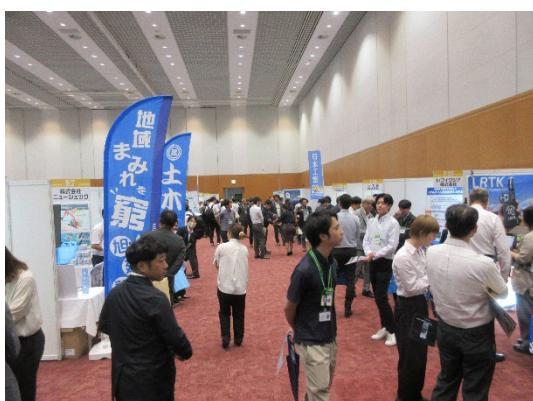
(3) 技術情報提供

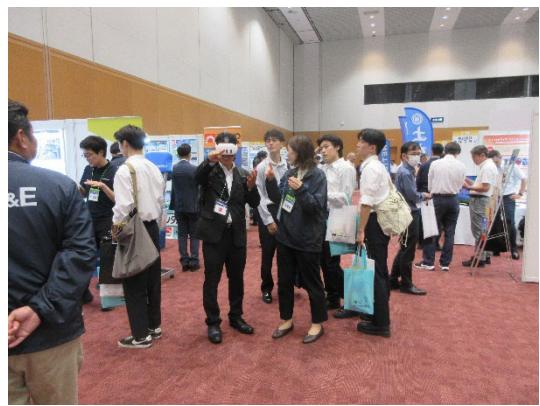
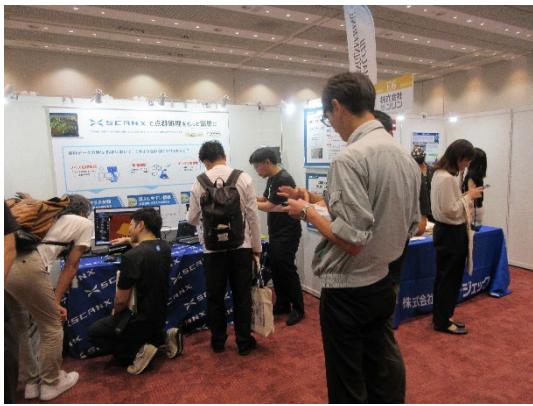
○1日目 (10月 7 日)

1) 技術情報のブース展示 (※10月 7・8日の2日間)

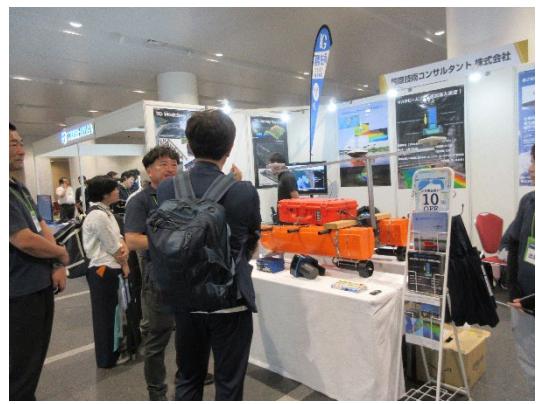
- ・テーマ：「インフラ DX」「安全防災」「維持管理」「環境」「品質」「学会活動報告他」
- ・出展数：90 ブース（出展者数：1階 14 ブース 2階 76 ブース）

▼ 2階会場展示状況





▼ 1階会場展示状況

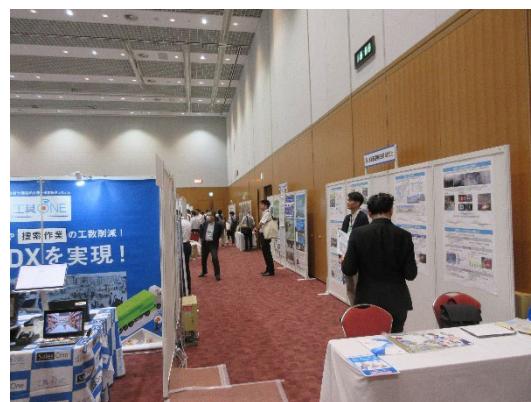


▼ 1F ロビーミニ展示ブース



2) ポスターセッション

- ・出展者数：8（企業・協会：5 学会関係：3）



3) 自治体パネルの展示

- ・出展自治体：10自治体（福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県
鹿児島県 北九州市 福岡市 熊本市）



4) プレゼンテーション（会場：402・403 会議室+405・406 会議室）

- ・参加組織：30 組織 1 日目（10月7日）→企業・協会（団体）9、学会 1
2 日目（10月8日）→企業・協会（団体）18、学会 2
- ・分 野：インフラ DX 9、安全防災 9、維持管理 6、品質 1、環境 2、学会 3
- ・聴講者数：1 日目（10月7日）→ 711 名 2 日目（10月8日）→ 860 名



5) リクルーティングプレゼンテーション（会場：413・414 会議室）

九州大学(98名)・九州工業大学(12名)・九州産業大学(16名)・福岡建設専門学校(65名)・祐誠高等学校(36名)が来場し、約230名が聴講。

- ・参加機関：8 組織

国土交通省九州地方整備局	(一社) 日本建設業連合会九州支部
(一社) 日本橋梁建設協会九州事務所	(一社) 日本建設機械施工協会九州支部
(一社) プレストレスト・コンクリート建設業協会九州支部	
(一社) 建設コンサルタント協会九州支部	(一社) 日本道路建設業協会九州支部
特定非営利活動法人九州コンクリート製品協会	



リクルーティングプレゼンテーション参加機関の紹介動画

(※以下の画像は専用ホームページから転載)

オリジナルPR動画

<p>■国土交通省 九州地方整備局</p>  <p>国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism</p> <h2>九州地方整備局</h2>	<p>■一般社団法人 建設コンサルタント協会九州支部</p>  <p>おしゃれで! ケンコンさん ～建設コンサルタントの仕事と魅力～</p>
<p>九州地方整備局のミッション</p> <hr/> <p>九州を「元気」にする。 大切な人のかけがえのない暮らしを守る。 未来の九州を育むことが私たちの使命です。</p>	<p>公共事業におけるまちづくりを計画、設計</p> <hr/> <p>国や自治体の依頼を受け、道路、橋梁、トンネル等の社会インフラの整備を通して住みよいまちづくりを支える技術者集団の業務内容と活躍の分野を、アニメを使って紹介します。</p>
<p>■一般社団法人 日本橋梁建設協会九州事務所</p>  <p>この橋は誰がつくりたのか、誰も知らない。</p>	<p>■一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会九州支部</p>  <p>一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会 JAPAN PRESTRESSED CONCRETE CONTRACTORS ASSOCIATION</p>
<p>橋で街と街を結び、豊かな明日を拓く</p> <hr/>	<p>確かなコンクリート技術で社会基盤を築く</p> <hr/>
<p> 九州建設技術フォーラム 2025 ホーム 開催趣旨 開催プログラム 出展者等の紹介 プレゼンテーション</p>	
<p>■一般社団法人 日本建設業連合会九州支部</p>  <p>確かなものを地球と未来に JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS 一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部 NIKKENREN RECRUIT PRESENTATION</p>	
<p>活躍の場は日本のみならず全世界へ</p> <hr/> <p>国内約50万社で構成される日本トップレベルの業界。活躍の場が全世界へ広がる業界の仕事の内容やビッグプロジェクトに参加する醍醐味を多角的な視点で紹介しています。</p>	

6) NETIS 相談コーナー（会場： 2F 多目的ホール）

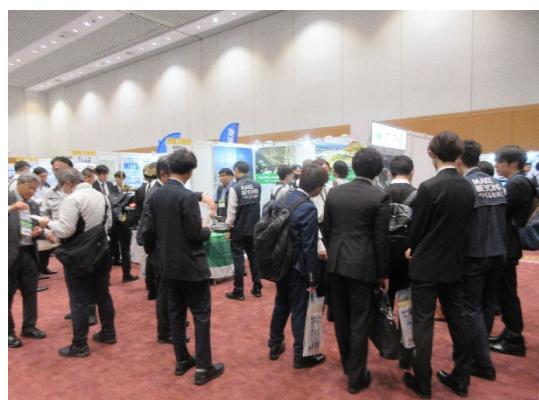
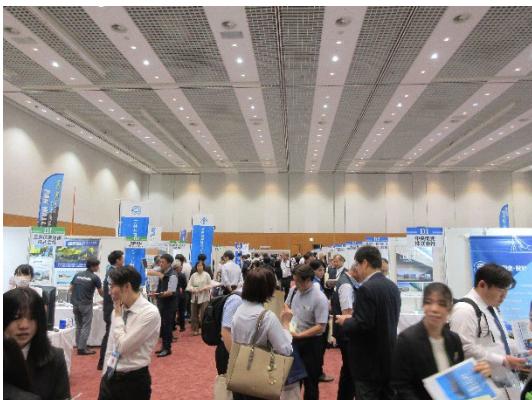


●2日目（10月8日）

（1）技術情報提供

1) 技術情報のブース展示（※テーマ及び出展数は7日・8日共通）

▼2階会場展示状況



▼1階会場展示状況

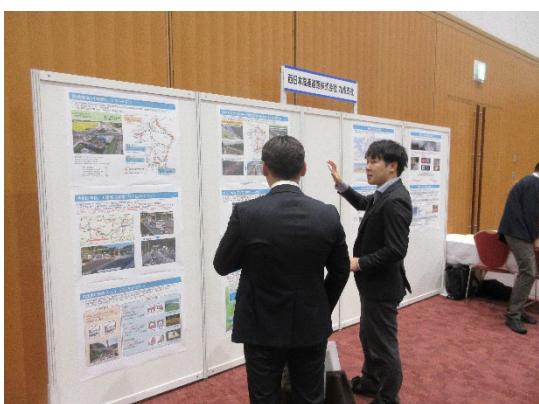


▼1Fロビーミニ展示ブース



2) ポスターセッション

・出展数：※7日・8日共通

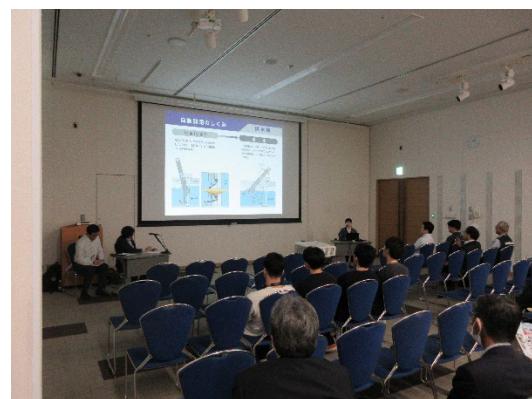


3) 自治体パネルの展示

・出展者：※7日・8日共通



4) プレゼンテーション（※参加機関数やジャンルは7日参照）



5) リクルーティングプレゼンテーション（会場：413・414 会議室）



6) NETIS 技術相談コーナー（会場：2F 多目的ホール）

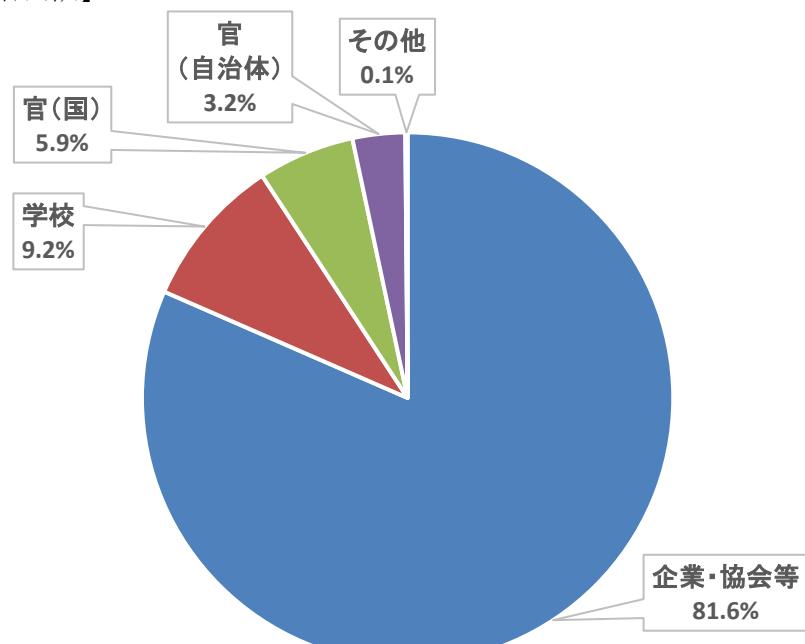


4. 入場者数内訳

分類		7日	8日	合計
産	※出身県別確認不可	1,234	1,136	2,370
	小計	1,234	1,136	2,370
学	大学	90	45	135
	専門学校	0	70	70
	高校	40	0	40
	その他(教員含む)	10	13	23
	小計	140	128	268
官	国	107	64	171
	地方自治体	41	52	93
	その他			0
	小計	148	116	264
報道・その他		3	1	4
合 計		1,525	1,381	2,906

		8日	合 計
講演来場者	メインホール会場	721	721
	小 計	721	721

【産学官別入場者内訳】



5. 出展方法および所属団体別参加実績

□出展ブース内訳		▼2024年実績 (ブース)	
インフラDX	38	33	
コスト	0	0	
安全・防災	16	21	
環境	9	8	
品質	4	3	
維持管理	20	18	
合計	87	83	

※学会×3を除く

□出展ブース別技術数内訳		(技術)	
インフラDX	53	50	
コスト	0	0	
安全・防災	27	41	
環境	17	18	
品質	6	4	
維持管理	29	25	
合計	132	138	

※学会×3を除く

□参加企業・官・協会団体・学会数内訳		(組織)	
企業	72	67	
官(国)	2	2	
官(自治体)	10	10	
協会団体	17	25	
学会	3	3	
合計	104	107	

※共同出展は2で計上

□ブース出展者履歴内訳		(組織)	
新規	28	19	
出展実績有	62	67	
合計	90	86	

※共同出展は1で計上

□ブース出展者所属団体内訳		(組織)	
日本建設業連合会 九州支部	13	14	
日本道路建設業協会 九州支部	1	1	
日本橋梁建設協会 九州事務所	1	1	
日本建設機械施工協会 九州支部	3	3	
日本埋立浚渫協会 九州支部	2	3	
プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	3	1	
全国特定法面保護協会 九州地方支部	1	2	
全国測量設計業協会連合会 九州地区協議会	1	0	
九州コンクリート製品協会	3	2	
建設コンサルタント協会 九州支部	18	17	
その他(大学含む)	44	42	
学会	3	3	
発注機関	1	1	
合計	94	90	

※一部重複

□技術情報の提供方法		(組織)	
ブース展示	90	86	

□ブース出展者所在地		(組織)	
福岡	50	60	
佐賀	6	4	
長崎	0	0	
大分	1	2	
熊本	1	1	
宮崎	1	1	
鹿児島	0	0	
関東・甲信越地方	15	12	
近畿地方	3	2	
中部地方	4	1	
山口・中国地方	1	1	
北陸地方	0	0	
四国地方	0	0	
北海道	1	1	
東北地方	1	0	
合計	84	85	

※共同出展は1で計上

▼2024年実績

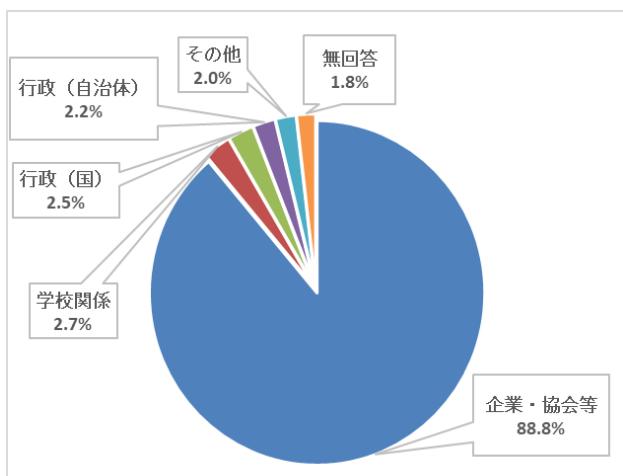
展示種類	出展機関所属団体		出展数	出展数
ブース展示	日本建設業連合会 九州支部	産	14	14
	日本道路建設業協会 九州支部		1	1
	日本橋梁建設協会 九州事務所		1	1
	日本建設機械施工協会 九州支部		3	3
	日本埋立浚渫協会 九州支部		3	3
	プレストレストコンクリート建設業協会		1	1
	全国特定法面保護協会 九州地方支部		2	2
	全国測量設計業協会連合会 九州地区協議会		0	0
	九州コンクリート製品協会		2	2
	建設コンサルタント協会 九州支部		17	17
	その他		42	42
	土木学会 西部支部		1	1
	地盤工学会 九州支部		1	1
	九州橋梁・構造工学研究会		1	1
	九州地方整備局		1	1
	合計		90	90
ポスター設置	日本建設業連合会 九州支部	産	1	1
	日本橋梁建設協会 九州事務所		1	1
	プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部		1	1
	西日本高速道路九州支社		1	※出展なし
	建設コンサルタント協会 九州支部		1	1
	土木学会 西部支部	学	1	1
	地盤工学会 九州支部		1	1
	九州橋梁・構造工学研究会		1	1
	九州技術事務所(NETIS技術相談)	発注機関	1	1
	九州地方整備局		※出展なし	1
	福岡県	官(自治体)	1	1
	佐賀県		1	1
	長崎県		1	1
	熊本県		1	1
	大分県		1	1
	宮崎県		1	1
	鹿児島県		1	1
	福岡市		1	1
	北九州市		1	1
	熊本市		1	1
	合計		19	19

※一部重複

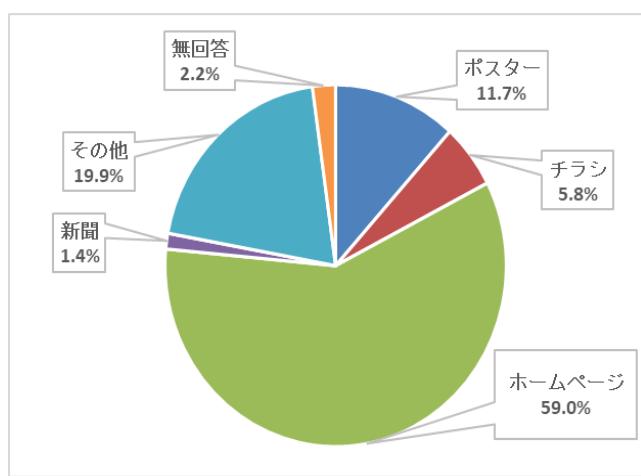
6. 一般来場者へのアンケート調査結果

【来場者アンケート】(アンケート集計数：599件)

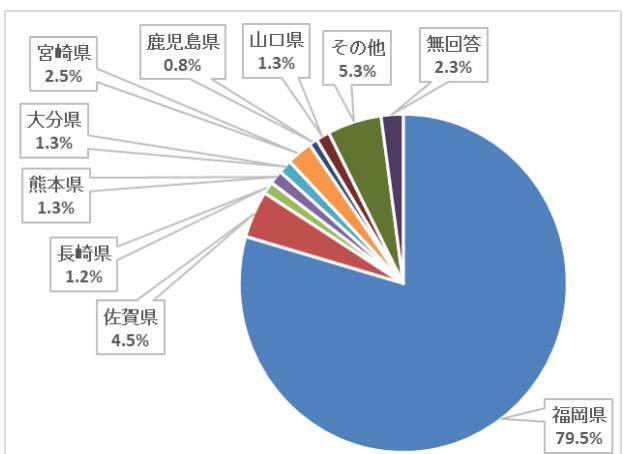
●職業は？



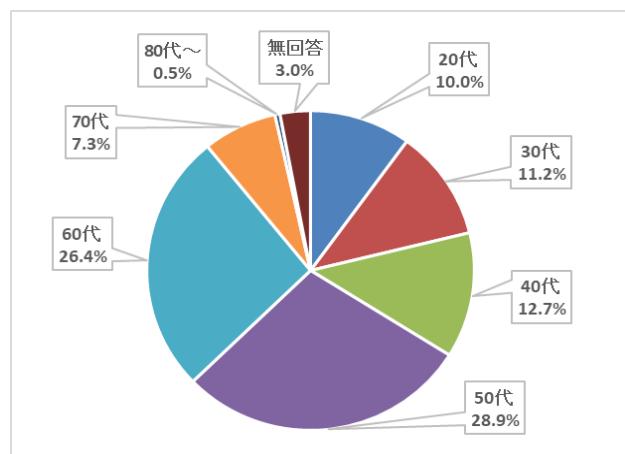
●何で知りましたか？



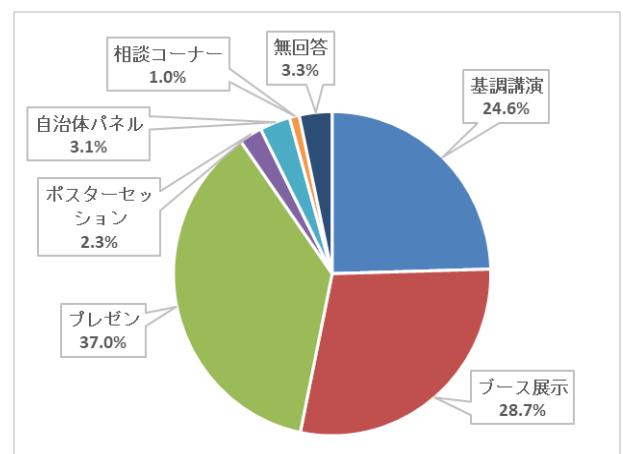
●どちらから来られましたか？



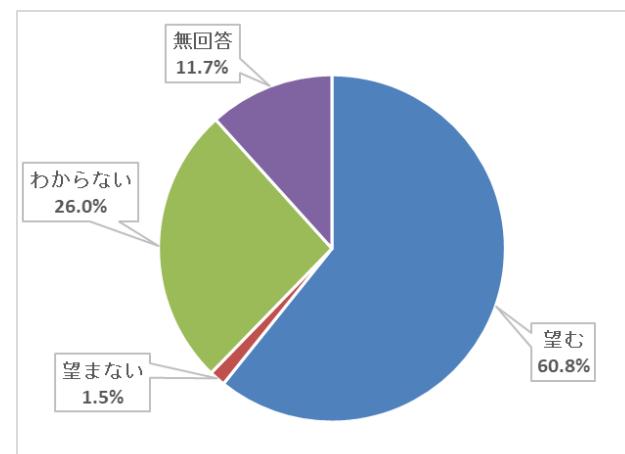
●あなたの年齢は？



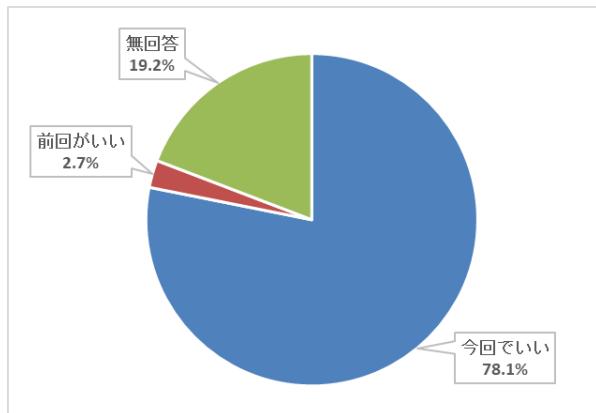
●印象に残ったプログラムは？



●「基調講演」のライブ配信を今後も望むか？



●受付場所を 1F ロビーに変更した感想は？



●アンケート回答者の書き込み（一部を抜粋）

【Q5-1】「基調講演」について、今後聞いてみたいテーマ等ございましたらお聞かせ下さい。

- ・AI 技術の活用や建設業界の AI 動向あれば紹介願いたい。
- ・AI や ICT 等の最新技術について聞いてみたい。
- ・AI を活用したコンサル業務の運営。・全国の様々な斜面崩壊形態の紹介とそのメカニズムについて。
- ・インフラの DX ・災害や地球環境の DX。
- ・今後、DX の現状。最終目標をテーマにして欲しい。
- ・インフラ DX の取組内容（土木系以外での実例）。
- ・自然災害（地震、台風）の監視、予知技術の最新動向について・情報セキュリティの最新動向について。
- ・地球温暖化対応・防災。
- ・防災や維持管理などのテーマに対して、局長や首長の対談等を聞いてみたい。
- ・インフラマネジメントの重要性。
- ・インフラメンテナンスにおける AI の活用。
- ・インフラの複線化の必要性及び統合的マネジメントの整備、見える化、改革推進力。
- ・橋梁の未来について・上水道 PC タンクの未来について。
- ・その時代にあった土木業界の課題→トピックに関すること。
- ・構造物のメンテナンスに関する事例など。

【Q7】技術の出展方法やプレゼンの実施方法についての気づきや改善点があれば。

●プレゼンについて

- ・プレゼンテーションの間隔（5 分）が短いため、次のプレゼンテーションに間に合わない。
- ・プレゼンテーションの移動が大変である。
- ・リクルートプレゼンへの学生参加を呼びかけてほしい（7 日 15 時 20 頃に大量退出で後が少なかった）。
- ・プレゼン入退室時の混雑緩和のため入退室動線の分離の徹底（入退室待機者、退室者へのルール案内の徹底）。
- ・4 階のプレゼンの場所がわかりづらかった。貼り紙をしてほしい。
- ・入場者入れ替えの導線がスムーズであるとありがたい。
- ・プレゼンテーションは聞くだけでなく、講演の資料が欲しい。

- ・プレゼンの入出口が分かりやすい方が良いと思った。
- ・プレゼンテーションの順番が書かれた紙を会場に貼っておく。
- ・プレゼンもWeb配信して欲しい。
- ・5分間のインターバルを10分ほどに伸ばしてくださるとバタバタ移動せずに済むと感じました。

●ブース展示について

- ・パンフレットに技術出展の内容を少しでも書いていただけるとブースを回る参考になる。
- ・ブースの出展内容が要点を初めに伝えて欲しいと感じた。
- ・ブース間隔をもう少し広く。
- ・似た技術展示が多かったので、もっと革新的な技術を見たかった。
- ・オンデマンド配信も実施してほしい。
- ・混雑していたため、もう少し広いスペースが欲しい（2Fブース、4Fプレゼンテーション）。
- ・VRやゲーム性もある体験型の展示が増えたので良かったです。
- ・実施に商品が置かれていて、九州で活用されているのを見られて良かった。
- ・写真が多いブースがとても分かりやすく質問しやすかったです。実際の材料を触ることが出来ておもしろかったです。

【Q8-1】受付場所を1Fロビーに変更したことについての感想は？

●今回の場所でいい理由は？

- ・1Fの玄関を入ってすぐなのでわかりやすかったです。
- ・1Fロビーに移ったことで受付がスムーズになったように感じた。
- ・入口なので全てが見学出来るので良かった。
- ・動きもスムーズで良かった。
- ・1Fには展示しているから。
- ・今回初めて参加したため比較できないが、1階で問題なかった。
- ・入口に近い所で列が長くなり、ドア付近が混雑しているのが見受けられた。
- ・混雑すると入口が入れなくなるので、今の場所から奥まったところにある方が良い。
- ・今回初参加でしたが、何も問題なかったです。分かりやすかったです。

●前回の場所がいい理由は？

- ・導線が分かりにくい。
- ・入口が渋滞する。
- ・玄関に入る所が分かりにくい。
- ・今まで通り2階に行ったら1Fになっていた。わからなかった（受付の案内がわらなかったから）。
- ・基調講演からの流れが良い。
- ・2Fが広い。

【Q9】九州建設技術フォーラムへのご要望がありましたらお聞かせ下さい。

●不満

- ・プレゼンのインターバルが短く感じる。
- ・講演の休憩時間が少し短い。

- ・リクルートプレゼンテーションは学生さんの数が少なかった。

●要望

- ・プレゼンも web 配信してほしい。
- ・コロナ前に比べて出展企業（第3セクター含む）が減っていると思うし体験型ブースも少ないと思うので、そのあたり主催者側にも力を入れてもらいたい。
- ・大学研究出展をふやしてもらいたい。
- ・今後、AIについて企画してもらいたい。
- ・Webで参加できる様にしてほしい（業務が忙しいので）。
- ・聴講の印を模す場所（人）を増やした方が良いかと思いました。
- ・気候変動に伴う自然被害の防止対策や予報強化等についてのプレゼンを入れていただきたい。
- ・今年は参加者が少なく感じたので広告をもっとアピールしてはどうか？

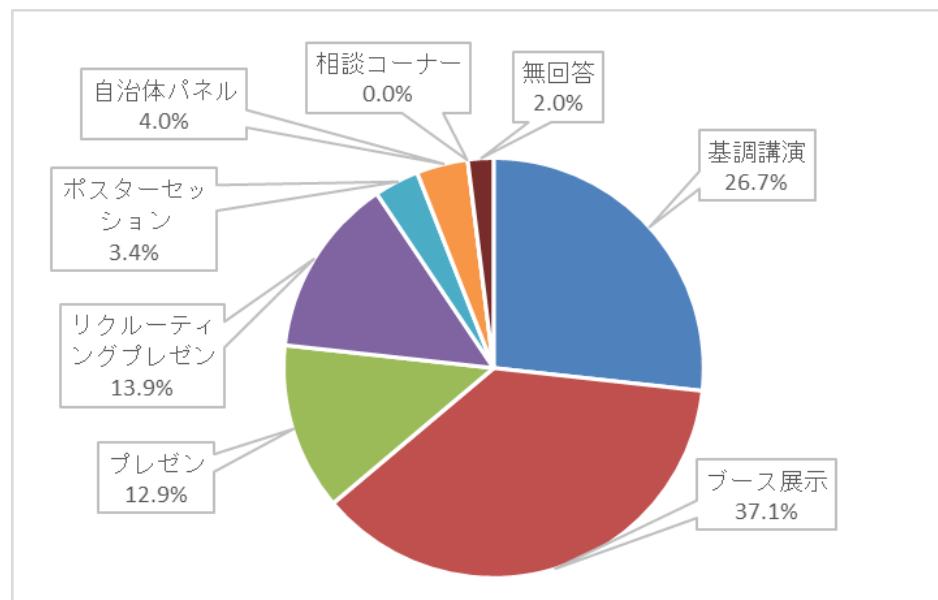
●その他

- ・毎年新しい技術が出ているので、大変参考になりました。
- ・世の中に、活用されている技術を見てることができて、ありがとうございます。
- ・先進的技術情報の取得のため、継続的な開催を望みます。
- ・今後とも維持管理メンテナンスに関わる情報共有ができます様よろしくお願いします。
- ・気候も良く、議会や予算の時期とも被らず、行政にとっては良い時期である。

7. 学生へのアンケート調査結果

【学生アンケート】(アンケート集計数：173 件)

【Q1】関心を持ったプログラムや技術情報の展示は？



●アンケート回答者の書き込み（一部を抜粋）

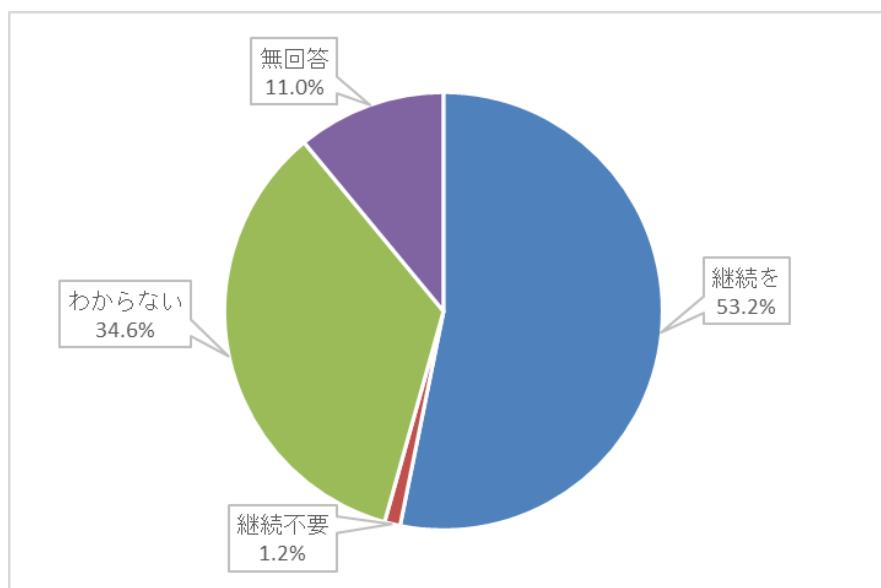
【Q1-1】とくに印象に残ったプログラムや情報の展示について、その理由は？

- ・基調講演の中でインフラマネジメントにおける政治の役割についての話が面白かった。
- ・いろんなプレゼンテーションがあって技術情報が分かった。
- ・基調講演。今までのどのような事故が起き、これからどのようなことをする事で良くなっていくのかを分かり易くとても深々としたお話で良かったです。
- ・先のことを見据えたインフラどうし協力する新たなマネジメント、インフラマネジメントがとても感心した。
- ・日本の企業は色々なことをしている事がわかりました。
- ・今まで聞いたことのない言葉ばかりで、難しかったんですけど、貴重な経験になりました。
- ・ゼネコンの遠隔技術。遠隔でも感覚が伝わる技術を体験できたから。
- ・企業の工夫が凝らされていて、土木に関する多様な技術があるのだと実感できた。
- ・土木コンサルのブース。自分の目の方向を認識して、3Dが動くというのがすごい技術だと思った。
- ・水中掘削を行う機会を見て、ICTの重要性と支柱掘削の最先端を見ることができたため。
- ・各建設業界の会社で、どのような技術を活用して事業を行っているのかを感じることができたため。
- ・たくさんの企業の特徴や性質を知ることができ、有意義であった。

【Q2】もっと詳しく知りたい、情報が欲しいと思ったプログラムや展示技術は？

- ・インフラのこれから実施することや回廊店などがあれば知りたい。
- ・建設コンサルタントの業務の形態について、より詳しく知りたいと思えた。
- ・AI や DX の技術についてもっと知りたい。
- ・ゼネコンが使っている自動運転などの技術は面白かったのもっと知りたい。
- ・日本建設業連合会についての説明で、世界で働くと仰っていたが、具体的な話を聞いたい。
- ・コンクリートの充填締め、養生管理について。
- ・今後の CAD 技術の情報や設計に関するものが見たいと思った。
- ・技術自体の展示もですが、その技術の簡単な原理も説明があると嬉しいと感じました。
- ・VR で視覚的に供水の様子を見る事ができたが、その VR を作るためににはどういうものが必要かなども知りたかった。

【Q3】今回「基調講演」をライブ配信しましたが、今後も実施を望まれますか？



【Q4】「リクルーティングプレゼン」を聴講しての感想や意見は？また、今後開催についての要望等は？

- ・建設コンサルタント業界は課題が出され、自分自身で解決策を見つけたりしていくとても難しそうな仕事で、楽しそうな仕事だと思いました。
- ・様々な会社のやりがい、仕事内容について知る事ができた。
- ・働き方を詳しく説明していた点が良かった。
- ・学生時代の反省点などを伝えていただいたことで、大人になってから後悔することのないようアドバイスしてくださったのが良かった。
- ・あまり詳しい仕事内容のイメージがつかなかつた会社についてよく知れて良い経験となった。学生に寄り添った動画や説明で良かった。
- ・名前は聞いた事があるが、どのような仕事をしているかあまり知らなかつた業界や会社の話が聞けて理解が深まった。
- ・知見のない業界を知れたのは良かったです。ただ、リクルートなので仕方ないのですが

福利厚生よりも業務を詳しく知りたかったです

- ・特定の企業ではなく、立場ごとの団体からの説明だったため中立的なプレゼンを聞く事ができて良かったです。
- ・とても分かりやすく、先を想像できる企業プレゼンだった。

【Q5】プログラムや展示する情報について、何か希望やご意見は？

- ・来年はおそらく個人で行くので学生が生きやすい土日にして欲しい。
- ・新卒の方や2、3年目の方と話す機会が欲しいです。
- ・学生向けのプレゼンテーションを増やしてほしい。
- ・とても良かった。
- ・すごく興味を持つような仕事ばかりでワクワクした。
- ・最高でした。
- ・各県の地場ゼネコンについて知りたい。
- ・良い機会になったのでこれからも続けるべきだと思った。

8. ホームページの改定について

専用ホームページについて、視認性や操作性の改善を図ることを目的に、今年全面改定を行いました。

●改定の最大のポイント

- ・スマートフォン対応型にページのデザイン・構成を行うことができるレスポンシブデザインを可能とする CMS 管理のサイトに移行。
- ・スマートフォン対応型のサイトに移行することで、スマートフォンの小さな画面でも視認性が大幅に向上を図った。
- ・CMS 管理となることで、ページ更新の迅速・簡易化を実現、ホームページ更新作業の初心者でも、必要に応じてページ更新を簡単に対応。

●改定の具体的な内容

※改定の具体的な内容、とくに「出展者等の紹介」ページのデザイン表示の工夫等については、P22 の別紙の「Web サイトリニューアルについて」を参照願います。

別 紙

Web リニューアルについて

トップページ



1-トップページ

本ページは、Webサイト全体の導入としての役割を果たすものであり、最新情報の告知や各コンテンツへの導線を集約した構成としています。PC版・スマートフォン版ともに、利用者が直感的に操作できるよう、視認性と導線設計に配慮したレイアウトとなっています。

①NEWS 最新情報

トップページの最上部に最新情報(NEWS)を配置し、「一番新しい情報を一番目立つ形で」掲載する構成としています。更新された情報が利用者の目にすぐ届くよう、視線の導線や余白、文字サイズにも配慮したデザインとしています。これにより、重要なお知らせや更新情報を確実に伝達することが可能となります。

②アクティブページの状態を視認化

ページ下部には、サイト内各コンテンツへのリンクをビジュアル化して配置しています。各アイコンは該当ページと連動しており、現在表示中のページが視覚的に強調されることで、閲覧者が自身の位置を把握しやすい設計となっています。これにより、サイト全体の回遊性の向上を図っています。

Web リニューアルについて

第二階層(開催趣旨)

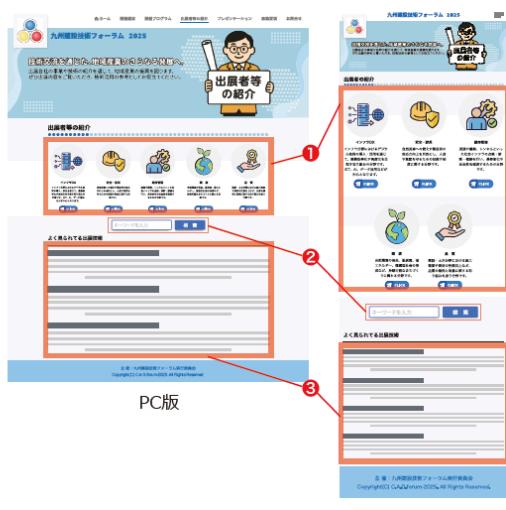


2-第二階層(開催趣旨)

本ページでは、第二階層「開催趣旨」ページにおけるPC版とスマートフォン版のレイアウト構成を示しています。

画面サイズに応じた情報の最適化や視認性の確保を重視し、ユーザーがどのデバイスからでも内容を把握しやすい設計としています。

出展者等の紹介(トップ)



3-出展者等の紹介(トップ)

本ページでは、各出展者が紹介する技術やサービスをジャンルごとに分類し、わかりやすくご案内しています。関心のある分野から情報を探したり、キーワード検索を用いて目的の技術を効率的に閲覧することができます。来場者の利便性を高めるため、よく閲覧されている出展情報も掲載しています。

①ジャンル別アイコン

出展技術を「インフラDX」「安全・防災」「維持管理」「環境」「品質」の5つのジャンルに分類し、視覚的にわかりやすいアイコンでナビゲーションを構成。ユーザーは関心のある分野を直感的に選択できます。

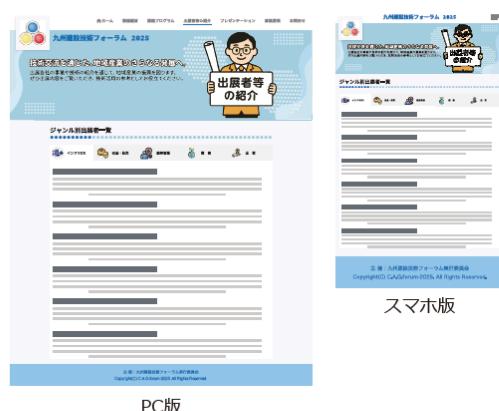
②検索

出展者名や技術名でのキーワード検索に対応し、目的の情報にすばやくアクセス可能です。ジャンル横断的な閲覧にも対応します。

③よく見られている出展技術

閲覧数の多い出展技術を自動で表示することで、他の利用者の関心の高い情報にアクセスしやすくなっています。初めて閲覧する方への導入コンテンツとしても有効です。

出展者等の紹介(一覧)



4-出展者等の紹介(一覧)

本ページでは、出展技術のジャンル別に出展者情報を整理しています。各ジャンルタブをクリックすることで、該当分野に出展している企業の一覧が表示され、関心のある分野から効率的に情報をご確認いただけます。

出展者等の紹介(出展者のページ)



本ページでは、各出展者との出展技術情報を詳しく紹介しています。技術名や技術の概要文に加え、PDF形式の技術カタログや資料を閲覧・ダウンロードできるほか、PR動画による紹介も掲載しています。

ユーザーは、出展技術の特徴やメリットを視覚的・直感的に理解でき、比較検討や技術活用の参考としてご活用いただけます。スマートフォンにも最適化されており、PC・モバイル問わず快適に情報を取得できます。